学校番号	322

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	国語表現	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	国語表現　（大修館）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

以下の四点を大事にし、表現能力の育成、文章能力の向上を目指しましょう。
１、日常生活における会話や文章の表現能力を高めるために積極的に授業に参加する。
２、生徒が能動的に活動できるように話し合いや文章の作成、発表など活動的な授業を行う。
３、提出物については期日を守ると同時に自分で解答し復習することを重要視する。
４、「読む能力」を向上させるとともに、交流するための「話す・聞く能力」、意志を明確に伝えるための「書く能力」を身につける。

２　学習の到達目標

１、状況や内容に相応しい言葉を選び、適切に相手に考えや思いを伝えることができる。
２、コミュニケーション能力を磨き社会に発信できる力をつけることができる。
３、言語感覚を磨き、論理的な思考力、豊かな発想力を育む。
４、人間関係において意見や考えを尊重し合い、正しく意志を伝え合うことができる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深める。更にもっと相手に伝わるような表現力を身につけたいという思いを尊重してその向上を図る。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深める。又他者の意見と比較検討しまとめることができるようにする。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書く。特に自分の言いたいことをまとめ、適切な表現を用いているかを確認する。	基本的な言葉の意味を理解し、更なる探求心を育むために漢字や語彙、文章の書き方などの知識を修得している。
評価方法	行動の観察 記述の点検（レポート・発表等）	行動の観察（発表、協同学習等による行動の評価）	記述の確認、添削（学習プリント、課題作品、作文等）	記述の確認、表現力の観察（作文、課題作品等）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	表現力を高める	１ 書いて伝える 整った文を書く わかりやすい文を書く ２　小論文・レポート入門 小論文を書く レポートを書く ３　自己ＰＲと面接 自分を見つめて 志望動機をまとめよう 表現力を身につける。 進路に向けての小論文、自己推薦文の書き方を学び実践する。			◎	○	c:文章製作を中心に語句の使い方、文法、表現能力など総合的に判断し高校生に相応しい能力を身につけているか d:グループ学習をおこない、ひとつの課題について全体で取り組むことができているか e:自分の考えを文章にすることができているか	c: 記述の確認、添削（学習プリント、課題作品、作文等） d: 行動の観察（発表による行動の評価） e: 記述の確認、表現力の観察（作文、課題作品等）
2学期	コミュニケーション能力を高める	４　メディアを駆使する 通信文を書き分ける ネット社会とコミュニケーション メディアと情報 ５　声とコミュニケーション ショートスピーチをしよう さまざまなメディアの特性を知り使いこなす。 声で伝える力とコミュニケーション力を高める。	◎	○		○	a:メディアやインターネットの情報を収集し精査してまとめることができるか d:ディベートやスピーチを実践し、コミュニケーション能力の向上に努めているか e:自分の考えをあらゆる資料を調べ、まとめることができるか	a: 行動の観察 記述の点検（レポート・発表等） b: 行動の観察（発表、協同学習等による行動の評価） e: 記述の確認、表現力の観察（作文、課題作品等）

3学期	1年間のまとめ	6　卒業制作 一年間の作品を成果として残すべく、「作品集」を制作する。 自叙伝、絵本、小説など漢字と語彙のトレーニング、論文のトレーニングを行い更なる国語力の向上を目指す。	○		◎	○	a:高校生活の集大成を能動的に取組み完成させているか c:誰もが理解し気持ちが伝わる作品を製作しているか e:高校生に相応しい語彙、文章で製作しているか	a: 行動の観察 記述の点検（レポート・発表等） c: 記述の確認、添削（学習プリント、課題作品、作文等） e: 記述の確認、表現力の観察（作文、課題作品等）

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力　　c:書く能力

d: 知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。